

からこあそび
若宮御殿の障壁画「唐子遊」



写真は京都御所北側にある、若宮御殿三の間の障壁画「唐子遊」です。若宮御殿は明治天皇がご幼少の頃過ごされた場所で、三の間は15畳、この他に上段の間、次の間、二の間があり計44畳の広さがあります。

唐子遊の筆者は、^{かしわゆうとく}栢友篤という京町絵師です。部屋の四方計16面の襖に、囲碁をする子供、大きな花車を引く子供など様々な子供が描かれています。唐子遊は、よく用いられる画題のひとつで、中国風の髪形や服装をした児童が遊ぶさまを画いたものです。京都御所には他に杉戸絵に

^{よしだげんちん}画かれたものが御車寄廊下にあります(吉田元鎮画)。



御車寄廊下の杉戸絵「唐子遊」吉田元鎮画

若宮御殿は普段公開していませんが、今秋の京都御所一般公開(10月31日(水)~11月4日(日))にて、この障壁画の一部を展示いたします。

今年は明治天皇崩御100年、そして御生誕160年目にあたるため、今秋の一般公開はこれらに因み、明治天皇がご幼少の時から明治初年までこの京都御所でお過ごしになられた様子に関連した展示をします。